

Oracle Enterprise Service Bus

ORACLE ESB

主な利点

- 変化に対する予測能力と対応能力の向上
- 組織の生産性の向上
- 情報技術環境の簡素化
- 既存投資の活用

機能

- オープンな業界標準を使用した統合プラットフォーム
- 包括的な SOA 開発環境
- 優れた使いやすさ
- 信頼性の高いマルチトランスポート・バス
- 複雑なビジネス・データの変換
- インフラストラクチャの包括的な管理および配置
- Oracle、PeopleSoft、JDE、および Fusion アプリケーションを含む広範囲な企業システムの接続性
- コンテンツ・ベースの柔軟なルーティング

オープン標準規格

- WSDL、SOAP、HTTP(s)
- 信頼性の高い SOAP、WSIF、WS-*
- JMS、XSLT、BPEL
- JCA、XPath、XQuery
- UDDI、JNDI、J2EE
- JDBC、SMTP、FTP

概要

Oracle Business Integration は、オープンなシステム標準に基づいた分散アプリケーションの構築、配置、および管理を行う完全な Web サービス・インフラストラクチャを提供します。Oracle ESB コンポーネントは、サービス指向アーキテクチャ (SOA) とイベント・ドリブン・アーキテクチャ (EDA) を実装するために設計されたコンポーネントであり、テクノロジー・ニーズをビジネス上の問題に適合させるための、迅速で低価格かつ効果的なフレームワークを提供します。

製品概要

Oracle ESB は、SOA および EDA を利用したサービス提供の基礎になります。この核心部分は、柔軟に結合されたアプリケーション・フレームワークであり、分散化された異機種間のメッセージ指向環境におけるビジネスに、高度な柔軟性、再利用性、および全体的な応答性を提供します。

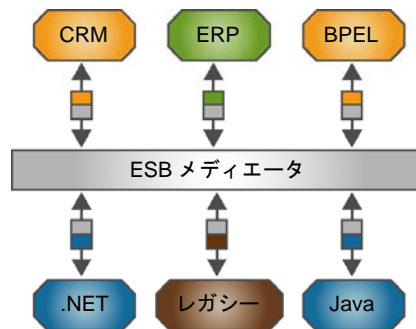


図 1: Oracle ESB メディエータ

Oracle Business Integration は、(i) ESB、(ii) BPEL PM、(iii) OWSM、(iv) B2B という 4 つの重要なソリューション・コンポーネントで構成されています。オラクルは、企業統合に対する総合的な単一プラットフォームを提供します。これは、Oracle AS、Oracle 10g RDBMS、Oracle JDeveloper の統合 DVE、および Oracle BI と完全に統合されます。また、Oracle インフラストラクチャと、セキュリティ、高可用性、スケーラビリティなどの GRID 機能を利用します。

信頼性の高いマルチトランスポート・バス

Oracle ESB は、複数のプロトコルをサポートする、柔軟でリアルタイムの企業バックボーンを提供します。すべてのサービスに Web Services Definition Language (WSDL) を使用してタイプ分けされたペイロードが含まれます。また、同一仮想マシンでサービス・コールに対する特別なメモリ内最適化を実現します。Oracle ESB は、Oracle Enterprise Messaging Service (OEMS) のメッセージング・インフラストラクチャを使用して、高速かつスケーラブルで信頼性の高いサービスを、Point-to-Point 型およびパブリッシュ/サブスクライブ型で提供します。OEMS を使用すると、多数のサード・パーティ製のメッセージング・プロバイダとの相互運用性が得られ、(i) データベース永続性、(ii) ファイル永続性、(iii) メモリ内の JMS サービス品質をそれぞれ提供します。

統合プラットフォーム

- Oracle AS Adapters
- Oracle Enterprise Messaging Service
- Oracle BPEL PM
- Oracle AS BAM
- Oracle AS B2B
- Oracle Web Services Manager
- Oracle Business Rules
- Oracle AS J2EE
- Oracle 10g
- Oracle Grid Enterprise Manager
- Oracle Data Hubs
- Oracle BI
- Oracle JDeveloper

アダプタのデータ・ソース

- SAP R/3、PeopleSoft、J. D. Edwards、Siebel、Oracle アプリケーション
- Tuxedo、CICS、IMS
- Oracle、Sybase、DB2、およびすべての JDBC 準拠ソース
- Oracle Advanced Queues、データベース、ファイル、JMS、および HTTP

追加情報

- Oracle AS Integration および評価版ソフトウェアのダウンロードについて、詳しくは www.oracle.com を参照してください。

ビジネス・データの変換

JDeveloper 内の標準ベースのデータ・マッパー機能を利用することで、XSLT 言語を使用した変換テンプレートを作成して企業全体で再利用できます。自動マッピング機能によって、以前の変換から共通のマッピングを記憶および再利用できます。ドメイン値のマッピングは、メモリ内で高速ルックアップを実行します。

広範囲な企業システムの接続性

Oracle Adapters は、双方向でリアルタイムの接続を実現し、JCA、WSDL、XML、JMS、Web サービス、および WSIF などのオープン標準をサポートしています。パッケージ・アプリケーションやテクノロジー・プロトコル・アダプタは、300 以上のデータ・ソースへのアクセスを提供するだけでなく、Oracle Applications とも緊密に統合されています。J2EE Connector Architecture (JCA) のオープン標準に準拠したすべてのアダプタは、すべての主要な統合ベンダーが採用しています。

コンテンツ・ベースの柔軟なルーティング

Oracle ESB Routing Service Mediator は、設計時のデプロイメント・ディスクリプタ定義を使用してルーティング・ルールを公開します。このデプロイメント・ディスクリプタ定義は、実行時に変更して、アプリケーションの効率を調整できます。Oracle ESB は、XPath、Oracle Business Rules、および外部プロバイダをサポートしています。コンテンツ・フィルタリングは、設定可能なフィルタ・ベースのサブスクリプション、ヘッダー、およびメッセージ・セクタを使用する JMS などのメッセージング・システムに実装できます。CBR サービスは、Java、PL/SQL、または Oracle BPEL PM を使用して、Oracle JDeveloper に配置できます。

統合モデリング環境

Oracle JDeveloper は、包括的で使いやすい設計時のグラフィカル・インタフェースであり、エンドツーエンドのメッセージ・フローの構築と、ESB サービス・メタデータの登録を行います。また、XSLT マッパーに統合された WSDL エディタと、標準 J2EE アプリケーション開発用の XSD スキーマ・エディタが含まれます。

包括的な管理容易性

分散 ESB サービスは、Oracle Enterprise Manager (EM) および ESB Control で集中管理できます。ESB Control は、サービス依存ビューアを提供しています。これによって、集約関係と分岐関係を可視化でき、システムの変更計画の影響分析を実行できます。このコンソールを使用すると、管理者は、ルーティング・ルール、変換、ドメイン値のマッピング、および外部で定義された他のサービスを動的に設定できます。

まとめ

Oracle Business Integration および ESB は、完全かつオープンで、拡張性のあるミッション・クリティカルなアプリケーション統合プラットフォームを提供します。このプラットフォームは、価格と機能の面においてこのクラス最高のものです。組織の規模、IT インフラストラクチャの複雑さ、またはビジネスの増大する要求にかかわらず、Oracle Business Integration および ESB は、競争の激しい今日のビジネス環境に必要な競争力を提供します。

Copyright 2006 Oracle. All Rights Reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的な保証を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否定し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクル社の書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。